



消費者への アドバイス

おむつ交換台からの 子どもの転落事故を防ぎましょう

- おむつ交換台を使う場合は、事前に必要なものを準備し片付けなどは台から子どもを降ろしてから行いましょう

▲ 1～3秒程度の短時間でも子どもは動いて転落するおそれがあります！

- アンケート調査結果では、おむつ交換台から子どもが落ちた(落ちそうになった)とき、保護者の8割以上が子どもから離れたり、目を離したりしており、その時間は1～3秒程度との回答が最多でした。
- おむつやおしり拭きなど、必要なものは事前に準備しておきましょう。
- 片付けやごみ捨ては子どもをおむつ交換台から降ろした後に行いましょう。
- 備え付けのベルトがある場合は必ず利用しましょう。



- 転落して頭部を打ったら医療機関を受診しましょう

▲ おむつ交換台からの転落は、頭部損傷のリスクが高く大変危険です

- 例えば70cmの高さのおむつ交換台から硬いコンクリートに転落した場合には中程度※2の頭部損傷が90%程度の確率で生じるとされており、大変危険です。特に床面が硬かったり、子どもが立った状態で転落した場合は、そのリスクがより高まります。

※2:頭蓋骨の骨折や、意識喪失を伴う顔の骨折や深い切り傷など



本内容の詳細は、独立行政法人
国民生活センター公式サイトに
掲載しています。
<http://www.kokusen.go.jp/>

くらしの危険

最新号やバックナンバーは
こちらからご覧いただけます。

公式サイト「くらしの危険」コーナー

<http://www.kokusen.go.jp/kiken/index.html>



●「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、医療機関等から収集した情報をもとに、被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。●特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。●商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。●無断転載はお断りいたします。



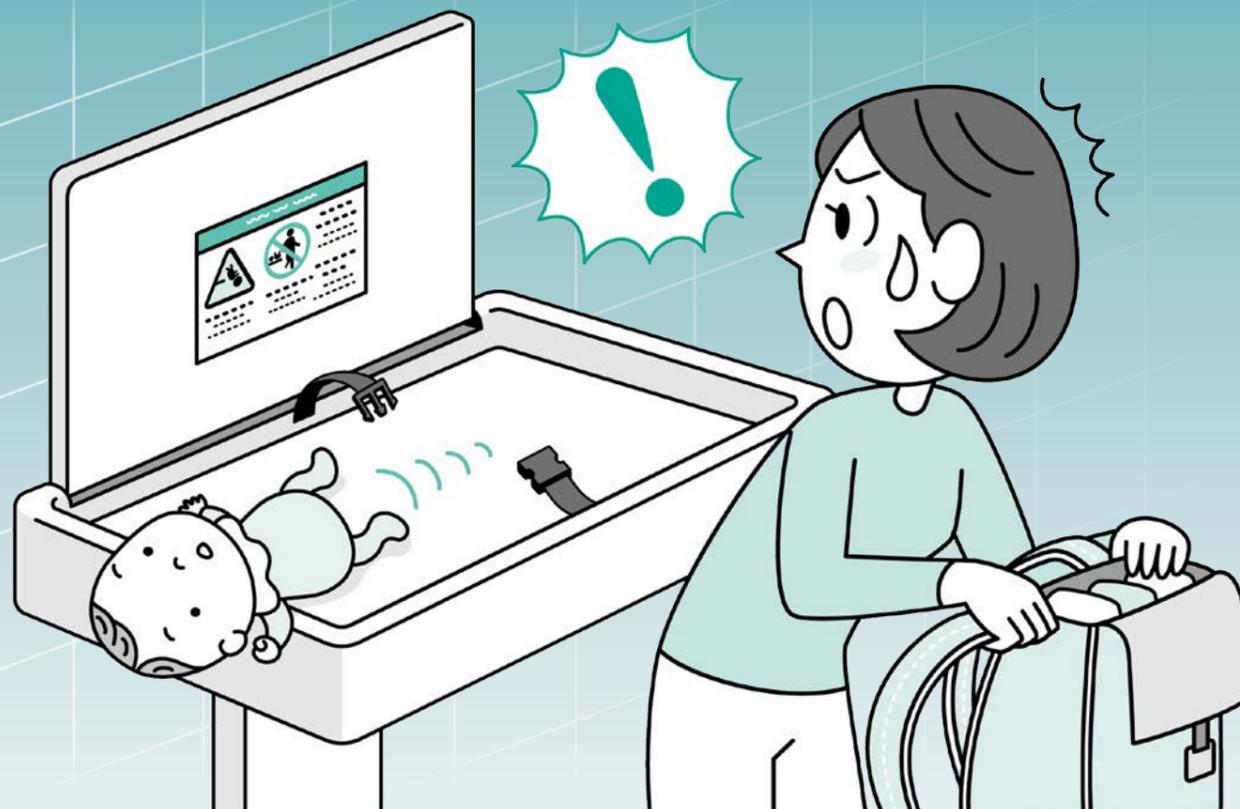
独立行政法人
国民生活センター

〒252-0229 神奈川県相模原市中央区弥栄3-1-1 TEL: 042-758-3165 ● 2021年 1月発行
イラスト: 川崎 敏郎

くらしの危険

Number
359

おむつ交換台からの子どもの転落 頭部損傷のリスクが高く入院する事例も



外出先で子どものおむつを替える際に、おむつ交換台は欠かせません。

医療機関ネットワーク※1には、外出先の施設などのおむつ交換台から子どもが転落して頭などにけがを負った事故の情報が寄せられており、中には入院を要する事例もありました。

おむつ交換台に子どもをのせる際には、事前におむつやおしり拭きなど必要なものを準備し、片付けやごみ捨てなどは子どもをおむつ交換台から降ろしてから行うようにしましょう。また、おむつ交換台にのせている間は子どもから離れたり、目を離したりしないようにしましょう。

※1:消費者庁と国民生活センターとの共同事業で、消費生活において生命または身体に被害が生じた事故に遭い、参画医療機関を受診したことによる事故情報を収集するもので、2010年12月から運用を開始しています。

こんな事故が起きています

医療機関ネットワークに寄せられた事故情報

ケース 1

子育て支援施設の洗面台の横の壁に設置されたおむつ交換台に子どもを寝かせ、保護者が数秒後ろを向いてバッグの物を取ろうとしたところ、泣き声が出たので子どもをみると床に仰向けになって泣いていた。頭頂骨及び後頭骨骨折と診断され、6日間入院した。

(事故発生年月:2019年9月、要入院、4カ月・女児)

ケース 2

スーパーのトイレにある折りたたみ式タイプのおむつ交換台から転落した。買い物の荷物が多かったため、おむつ交換台に荷物と子どもをのせたままで手を洗った。洗面台はおむつ交換台のすぐそばにあるため、子どもを見ながら手を洗っていたが、子どもが立ち上がり、荷物をよけておむつ交換台の横隅から落ちたように見えた。保護者は支えようとしたが間に合わなかった。頭骨骨折、急性硬膜外血腫と診断され、5日間入院した。

(事故発生年月:2017年11月、要入院、1歳8カ月・男児)

ケース 3

公園で、8カ月の子どもを柵のないおむつ交換台に座らせて、きょうだいのトイレを手伝っている間、子どもに背を向けていた。子どもの泣き声が出て、気づいた時には子どもが転落して床で仰向けに倒れていた。床はコンクリートであった。頭頂骨骨折、急性硬膜外血腫及び頭部皮下血腫を負い、9日間入院した。

(事故発生年月:2016年12月、要入院、8カ月・男児)

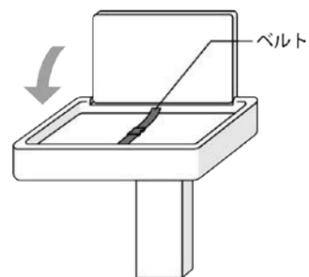
ケース 4

ショッピングセンターの授乳室で、保護者が使用済みのおむつを丸めてごみ箱に捨てようとしたところ、子どもがおむつ交換台から転落し、頭部を打撲した。

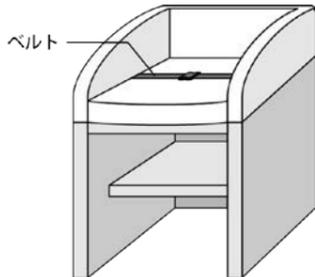
(事故発生年月:2014年7月、即日治療完了、7カ月・女児)

外出先の施設などのおむつ交換台の主な形状 (イメージ)

▼折りたたみタイプ



▼据え置きタイプ



▼柵のあるタイプ

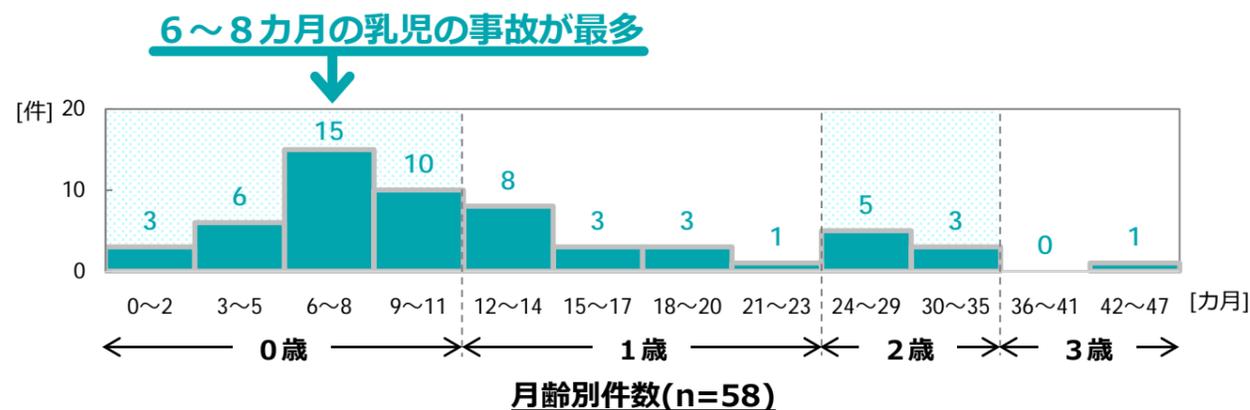


事故の傾向を調べました

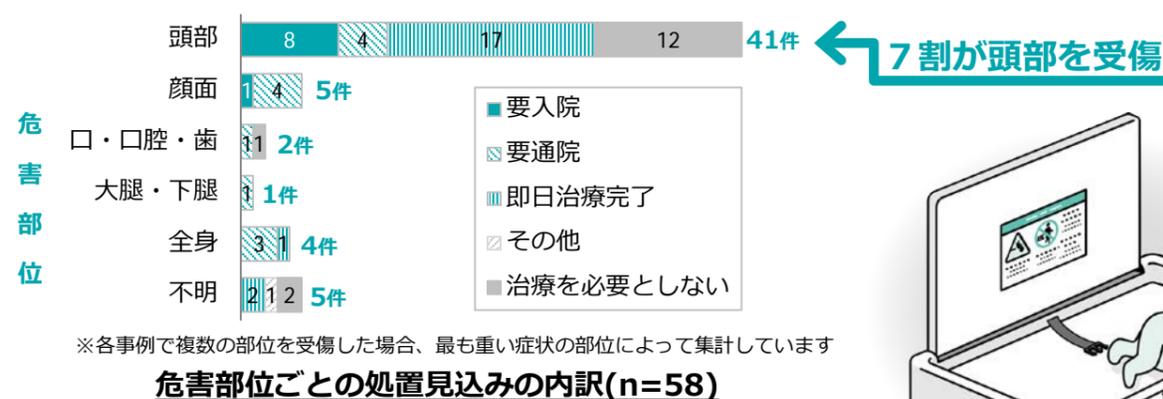
1 医療機関ネットワークに寄せられた事故情報からみる傾向

おむつ交換台から子どもが転落する事故が、2010年12月以降の約9年間で58件寄せられています。(2010年12月以降受付、2019年12月31日までの伝送分)

◆ 寝返りができるようになり、つかまり立ちをし始めるころから事故がみられます



◆ 頭部を受傷することが多く、入院を要するものもありました



2 アンケートからみる消費者の利用実態

■調査対象：現在0~3歳の子どもを保護者で、外出先の施設などのおむつ交換台(寝かせるタイプ、ベッドタイプを含む)を利用したことがある人 ■対象人数：1,000人(男性：454人、女性：546人)
■対象年齢：22~55歳 ■実施時期：2020年1月

◆ 約4割(380人)の人が、おむつ交換台から子どもが落ちた、または落ちそうになった経験がありました

▼ その時の状況は・・・

◆ 8割以上の人子どもから離れたり、目を離したりしており、その時間は1~3秒程度との回答が最多でした

◆ 7割の人がかばんから物を取り出したり、おむつなどのごみを捨てたりしてました

● この調査の詳細は、独立行政法人国民生活センター 公式ウェブサイトの発表情報「おむつ交換台からの子どもの転落に注意！-頭部損傷リスクが高く、入院する事例が寄せられています-」で見ることができます。